

リサーチ ユニット名称	グローバル地域研究ユニット	
	Research Unit for Glocal Area Studies (GLOCAS)	
<b>組織</b>		
氏名	部局・職	主な研究テーマ
(代表者) 石坂 晋哉	法文学部・准教授	「自然農法」のグローバル化
(構成員) 梶原 克彦	法文学部・准教授	「ナショナリズム」とグローバルの関係
近廣 昌志	法文学部・准教授	「ピアノ」のグローバル化
福井 秀樹	法文学部・教授	「グローバリズム」とグローバルの関係
三上 了	法文学部・准教授	「綿業」のグローバル化
米田 誠司	法文学部・准教授	「ローカリズム」とグローバルの関係
山口 由等	社会共創学部・教授	「鉄道」のグローバル化
計 7名		

リサーチユニット名称	グローバル地域研究ユニット
代表者氏名	石坂 晋哉

〔リサーチユニットとしての目的〕

ローカルな場で培われた知・価値・技術・制度が、人・モノ・カネ・情報の移動に伴って世界各地に広がり根付いていくダイナミックなプロセスを学術的に捉え分析する枠組と方法論を構築し、新たな学問領域としての「グローバル地域研究」の形成に寄与する。

〔リサーチユニットとしての活動実績概要〕

GLOCAS研究会を11回開催し、メンバー間の専門分野の違いを越えて問題意識を共有することができ、グローバル化現象分析の3方向アプローチの開発や混合研究法の彫琢などの重要な成果を挙げることができた。GLOCASとしての刊行物の刊行、学会ミニ・シンポジウムの開催、講演会の開催、ウェブ発信、現地調査・資料収集、法文学部ニューズレターでの研究成果公開、個別研究プロジェクトの各種研究成果、外部資金獲得に加え、世界社会学会議トロント大会でのパネル報告、愛媛大学ミュージアムでの活動紹介パネル展示などを行った。また、研究と教育との効果的連動を目指し、学生と共に関係者を訪ねインタビューをする等の実践を進めている。

〔今後の活動計画概要（活動計画概要をポンチ絵を用いて示した上で、簡潔に記載すること）〕

ナショナリズムとグローバルの関係解明

グローバリズムとグローバルの関係解明

ローカリズムとグローバルの関係解明

**グローカリズムの提唱**

「グローバル化現象分析の3方向アプローチ」の精緻化

- ①「マグロ遠洋漁業」のグローバル化
- ⑤「鉄道」のグローバル化
- ②「食品小売店」のグローバル化
- ⑥「ピアノ」のグローバル化
- ③「俘虜収容所」のグローバル化
- ⑦「綿業」のグローバル化
- ④「自然農法」のグローバル化
- ⑧「インバウンド観光」のグローバル化

第1班「グローバリズムとグローバルの関係」、第2班「ナショナリズムとグローバルの関係」、第3班「ローカリズムとグローバルの関係」の3班体制で理論化を図るとともに、合計8つの事例分析を通じて、地域間のつながりのパターンを解明し、グローバル化現象分析アプローチの精緻化を図る。積極的に研究成果を発信し、グローカリズムの価値を提唱していく。